



Q コース <黒田・山本地区>

山本勘助と俳人梅市の里をたずねるコース

— みどころ —

戦国時代、武田信玄の軍師として活躍したとされる山本勘助の生誕地や、江戸時代に活躍した女流俳人雪花亭梅市の故郷を巡る。

みどころポイント 石造物  寺社 



ゴール

スタート

南部公民館 黒田345-2

①黒田用水

②雪花亭梅市の墓

③黒田八幡宮

④石造物

⑤手ひき

⑥山本八幡宮

⑦厚原・伝法用水取入れ口

⑧「山本勘助誕生地」の碑

⑨潤井川第一発電所

⑩本光寺

台地のへりを歩く。富士山の眺望が最高！

200m

距離：約6km 所要時間：約2時間

マークの凡例： 観察ポイント ● 説明板 ▲ トイレ  駐車場 P 寺院  神社 

石造物  富士山眺望ポイント  ルート —

— コースのみどころ —

①黒田用水

黒田用水は、市内泉町で方辺川の水を取り入れ、潤井川を掛樋で越えて黒田地区一帯を灌漑する。もとは潤井川から取水する野中用水と水路を併用していたが、泉発電所建設により水量が不足したため、方辺川から取水するように変更された。

②雪花亭梅市の墓

雪花亭梅市は駿河国(静岡県)を代表する女流歌人である。文化年間(1804~1818)頃の黒田村名主中野與十郎の妻であり、本名は光(美都)といった。墓碑には、辞世の句「夢の世越ゆめに戻し亭枯野哉」が記されている。

③黒田八幡宮

もとは本光寺(⑩)境内に祀られていた八幡宮を、江戸時代に遷したものとされている。また、御神木のイチヨウ(市保存樹)は、本光寺のイチヨウの実から育てたものだといわれている。

④石造物

明星山に通じる道筋にあたる場所に、甲子、馬頭観音、大日如来などの石造物がある。また、市内では珍しい単体道祖神がある。

⑤手ひき

文化・文政年間(1804~1830)頃の星山村名主深沢安兵衛が建てた手ひき(道標)である。安兵衛は、用水路整備や道標建設などを行った。現在、安兵衛が建てた道標が星山地区を中心に27基残されているが、ここの道標のように建てられた当時の位置に残されている物は少ない。

⑥山本八幡宮

武の神・農業の神である八幡神(応神天皇)を祀る。神社のある場所を多田之森といい、多田源氏の祖多田満仲(源満仲)を祀るともいわれている。

⑦厚原・伝法用水取入れ口

市内小泉で潤井川から取水し、富士市榎沢を2本の樋で渡り、富士市厚原・伝法に至る用水である。かつては厚原・伝法地区の水田3000石余を灌漑したという。

⑧「山本勘助誕生地」の碑

戦国時代、山本勘助はこの地に生まれ、三河国(愛知県)の牛窪に養子にいき、「山本勘助」と名乗り武田信玄の軍師になったと言いつた。また、碑のある吉野家は、南北朝時代にこの地に居住したといわれる旧家である。

⑨潤井川第一発電所

製紙工場の動力源として大正14年(1925)に発電を開始し、現在(平成26年4月現在)は王子エフテックス株式会社の発電所となっている。江戸時代、富士宮市は和紙生産地だったが、明治時代になると潤井川沿いに近代的な製紙工場が建設された。これらは初期には水力を、大正時代になると水力発電所を建設して電力を動力源とした。

⑩本光寺

日蓮が身延山に向かう途中滞在した土地に建てられたとされる。本光寺でぎんなんと御洗米をもらい、お粥にして食べるとお乳が出るようになるといわれた。また、本堂前には、雪花亭梅市が文化2年(1805)に建てた句碑(市指定史跡)がある。